

## アクシデント続きの

## 2005 GWツアー

メンバー

石野・大塚・大倉・木倉・大本

今年は雪が多いと思い、昨年から狙っていた白山山域の「取立山～白山一里野」の大縦走を計画していたのだが、GW前の曇りと雨で多量にあった積雪もずいぶん溶けたようで断念！。どの山域も根雪が少ないせいで昨年よりも少なかったようだ。



全く雪のない登山道



取立山山頂



取立山避難小屋

### 4/29 取立山 曇り/雨

気合い十分に姫路(2:00)を出て東山いこいの村(6:30)に着。天気は高曇りであるが、昨日までの予報はしだいに晴れてくるとのこと、期待してフル装備25kgを担いで林道の残雪を横目に歩いて行く。登山道の分岐くらいで小雨がばらつき始める。取立山(8:46)に着く頃には本降りとなり始めて気温も高いせいで一面にガスが沸き始めてホワイトアウト状態になり始めるが低山なので周りの木が目印になりシール歩行をしたり担いだりと雪を求めて彷徨しているようである。山頂を過ぎて取り合えずは避難小屋(9:10)へと逃げ込んだ。

小屋で早速ミーティングをする。この取立山1307mで雪が無いとなると、明日の予定の赤兎からの行動では再び半分以上が担ぎ重視になること必死であるし、この天候ではどうにも前に進めない。早速「白山の仙人」ことバタやんに連絡をとると明日は晴れるが明後日の午後からは再び雨となる、とのことなので**急速計画中止を決定し、市ノ瀬からチブリ越えて白山を越えて釈迦新道への縦走に計画を変更**することにした。

やはりこの「取立山～白山一里野」計画はテント持参で3月後半から4月前半が良さそうであるが、やはりなんと言ってもロング縦走は天候しだいである。

再び担いで東山いこいの村まで下山し、車移動で市ノ瀬まで行き、永井温泉で冷えた体を温める。市ノ瀬ゲートは昨日から開いており車もちらほらと駐車している。やはり天候不順で明日に備えているのか。市ノ瀬ビジターセンター前にビッグテントを張り久々にバタやんと合流する。バタやんが撃ったかどうかは知らないが、イノシシの肉を差し入れしてもらって何年かぶりのボタンナベに舌鼓を打った。またおいしい地酒に話が進み手拍子でバタやん自慢の歌が飛び出し完全宴会モードになってしまった。「バタやんありがとう(^.^)」



御舎利山から白水湖方面の広大な谷



#### 4/30 チブリ小屋 晴れ

4時半起床、昨晚の雨はすっかりと上がり東の空が赤くなり始めている。

#### 6:15 行動開始 担ぎ

駐車場には夕べからの泊まり組が多々やってきていて皆それぞれの準備に大忙しである。

楽しい酒を飲み過ぎ少々二日酔いではあるが、板をザックにくくりつけて一泊二日の食料ではやり 20kg はあろうか、肩に食い込む。

#### 6:40 登山道

雪溶け水で増水している細谷川沿いの林道から登山道へと登り始める。

雪は北斜面なのでちらほらとあるが、とてもシール歩行できるもので



チブリ尾根登山口



ヤブ漕ぎで稜線へ



白山を仰ぎながらシール歩行

はない、1250mくらいからシールも可能であるが、稜線に辿り着くまでは登りも急なのでそのまま担いで行く。

8:10 稜線到着 1400m シール

最後の急斜面のヤブ漕ぎを過ぎてやっとシール装着可能である。シールトレースが2本、山スキー先行者が一人いるようだ。

気温もぐんぐんと上昇して昨晚のアルコール水分が一気に吹き出してきて少々脱水気味である。

10:00 チブリ小屋 1900m 小休止

稜線に上がり白山方面を左に仰ぎながら、右斜面はブナとシラビソ、ミズナラの混生林で滑るのが少々うるさそうである。しかしチブリ小屋からの赤谷方面への斜面は巨大なダケカンバ帯の間をぬって快適な斜面が続いているが、前方を見上げると御舎利山や別山、そして南竜へ続く稜線も雪付きがとても少ない。

普段ならザックを降ろしての30分小休止など

取らないのに、気温もどんどん上昇してきてか、いつもの闘志あふれる White Bird の姿がどことなく失われてしまって、「雪も少ないしこの小屋ベースで遊ぼう」と言い出すと、大倉氏が「アホッ！まだ10時やで、飛べないニワトリに名前替えになるでっ！」の言葉に気合いを入れ直して「よしっ、大汝まで行こう」と再び重荷を担いでシール歩行が始まる。一人の先行者も急斜面にあえいでいる様子が見える。

12:00 御舎利山 2380m

御舎利山からのパノラマは東方面に雪がびっしりと付き白水湖方面にとても快適な斜面が広がっている。ここは夏に下調べをしていたので予想通りである。こんな斜面を見たら今までの登りの疲れもどこへやらで早速にザックをデポして滑降準備をする。大倉氏は別山へ行ったことがないのでシールでピストンだ。

しかし強力木倉が全くもって登ってこないではないか！、30分待ってやっと登ってきたが、



チブリ小屋到着



御舎利山へのつづら折れの急登

「もうヘトヘトで足がケイレンしている、ここでツェルト張ります」といつも強気の彼が言い出すしまつである。消沈しきった彼を休ませて、我々は白水湖方面へと快適斜面を滑降する。すると別山から一直線にシュプールを描いていた

谷と合流、この山スキーヤーは昨日からチブリ小屋に泊まっていた別山をベースに滑っているのだと聞いた。

登り返しは別山へと続く谷あいを見下ろすと、今回の縦走計画コースが目に入り込んできた。鉢伏山から大長山、赤兎山はまだまだ白くスキー縦走可能であるようだが、やはり思った通り赤兎から杉峠辺り、三ノ峰手前までは黒い木立であった。

別山からはこの2月に縦走した石徹白方面の山々が見渡せて雄大である。この別山から南に落ちる大沢は下が見えない大迫力である、この斜面には滑降意欲がわいてくるが今は空身なのでドロップインできない。

13:10 御舎利山へと引き返し木倉の様子をうかがうが、もはや縦走意欲が失せているので、またもや計画を断念してチブリ小屋に引き返すことに決定するが、時間もまだ早いのでこの快適斜面をもう一本滑ろうとなり今度は全員でドロップイン



滑降のあとには登り返しが・・・



御舎利山から白山方面



御舎利山からチブリ尾根への急斜面



別山にかんぱ~い(^.^)

する。やはり彼は相当に足にきているようで滑りも辛そうであった。

明日は天気を見計らってここへ登り、別山から南面の大沢を滑ろうとチブリ小屋目指してフル装備で御舍利山の急斜面を快適に飛ばす。

15:30 チブリ小屋

小屋には登山者2人と神戸からの山スキーヤー2人がいた。天気もいいので雪上テーブルを作り「別山にカンパ~イ！」

5/1 下山 晴れ/雨

5:30 起床

昨夜から強風が吹き荒れて期待の星空も見られなかった。



別山方面はガスってきた

小屋窓から別山方面を見ると南から濃いガスが上がって来ていて御舍利山も見え隠れするほどになっている。登ってくる太陽も輪を描いている、ラジオの予報では「晴れのち午後から雨」である。昨夜は冷え込みもなかったの雪質

も申し分ないのだが、いかんせんこの天候ではちゅうちょせざるをえまい。

8:00

ゆっくり目の朝食をとって取り合えずは御舍利山を目指そうと装備を仕込んで登っていくが、だんだんと風も強くなり始め、ガスも沸き始めてきたので

1250mくらいのシラビソ帯から戻ることにした。快適な斜面をぶっ飛ばして、アツという間に小屋へ・・・、今度は小屋近くから北斜面のダケカンバ帯へ・・・ここも申し分なしであった。

9:30 下山開始

だんだんと天候も怪しくなってきたので早々に退散することにした。神戸組はまだ御舍利山方面から降りてこない。

尾根伝いに登ってきたルートを滑って帰るのだが、狭い尾根を避けて尾根沿いの斜面のダケカンバやブナ林へと滑り込んで行く、ここで最悪のアクシデント発生！・・・。

10:00 ダケカンバに激突！！

ものすごいスピードで狭い木々をすり抜けたと思った瞬間、巨大なダケカンバに大倉氏が正面衝突！。「(、' \ \ ベキバキッ！！」ともものすごい音がした瞬間その根本に轟沈してしまった。「だいじょうぶかぁ~?」あの丈夫なターミネーターが壊れるはずないと思っても全くもって動きがないし返事もない。我々もこの狭い木々の間をすり抜けるのに手間どってしまった。「意識はあるか、手足は動くか、痛い箇所は？」と尋ねると、彼は額を強打してむち打ち状態になって首を全



小屋北面のダケカンバ帯



応急処置で包帯で首を固定

く動かせない状態であった。また右手で木の枝をはらったのか、なんとストックのグリップがブチ折れていた。応急処置で包帯で首を固定する。彼のザックの荷をみんなで区分けして担ぎ、スキー板も私のザックにくくりつけた。ストックもテープで巻き付け

てなんとか下山可能状態になった。骨折はしていないようなので何とかしのげたが、またしても銀杏峰の古葉谷の恵のことを思いだしてスキー板で簡易ソリを作るのを想定してしまった。

13:05 無事に下山

下山するや否や空が泣き出し、本降りの雨になってきた。下山後早速に福井記念病院の緊急外来でレントゲン撮影やCT スキャンを



全員で対処してツボ足で下山

してもらったが、骨には異常なかったので安堵した。

白山のふもとでは、山さくらの花びらが雨にうたれて一枚一枚残雪に散ち落ちる・・・山々も冬から春に移り変わり新緑の美しい景色に変わろうとしていた。



PS.

残雪に桜が散る

今回のGW ツアーは、雪不足 / 悪天候 / 計画変更 / 体調不良 / アシデントと、負が重なり消化不良のツアーに終わってしまった。

来シーズンからは滑落停止訓練にプラスして、スキー板で簡易ソリを作り実際に乗せたり担いだりの訓練も必要なことだとつくづく実感した。

